

# 日本の隔世代関係についての一考察

——儀礼的隔世代関係、隠居孫、隔世代祖名繼承法を中心に——

上野和男

- 
- |            |            |
|------------|------------|
| 1 問題       | 4 隔世代祖名繼承法 |
| 2 儀礼的隔世代関係 | 5 結語       |
| 3 隠居孫      |            |
- 

## 論文要旨

この小論は、会津農村のトリアゲジイサン・トリアゲバアサン、茨城県のインキョムスコ・インキョムスメ、および五島の名取り慣行をとおして、日本の隔世代関係、すなわち祖父母と孫の関係の構造とその社会的意義を明らかにし、さらに隔世代関係をつうじて日本の直系型家族や隠居制家族の構造を考察しようとするひとつの試論である。日本の隔世代関係についての社会人類学、社会学などの研究は、親子関係、夫婦関係に関する圧倒的な質量の研究に比較してきわめて少なく、この分野の研究は大幅にたちおかれていているのが現状である。

会津農村のトリアゲジイサン・トリアゲバアサンとトリアゲッコの間の儀礼的隔世代関係は、儀礼的孫の出生にあたって儀礼的祖父母が立ち会い、逆に儀礼的祖父母の死にあたって儀礼的孫が重要な役割を果たすことに示されているように、祖父母の世代と孫の世代の交代をもっともよく象徴する慣行である。茨城県の隠居制家族における隠居孫は、隠居制家族内部における家族的統合に祖父母と孫の関係が、きわめて重要な役割を果たしていることを示す慣行である。さらに長崎県五島の名取り慣行は祖父母の世代の個人名を孫の世代が継承することによって、祖父母の世代と孫の世代との間に親密な関係を設定する慣行である。またこの親密な関係をとおしてヤウチとよばれる双性的親族関係の維持とスムーズな運営が確保されているのである。

隔世代関係をめぐるこれらの慣行の分析からあきらかなことは、親子関係と隔世代関係の明確な構造的差異である。親子関係は上下関係を特質とし、基本的に対立を内包する関係であるが、隔世代関係は世代的に交代する者の間の親密な関係がより強調され、家族統合においても重要な役割を果たしている。したがって日本人は親子関係と隔世代関係に異なった意味づけを与えていることは明らかである。